

(4) 子供の情報の引継ぎ

進級、転学、進学、就職。通う場所や周りの教師・友達、活動内容など、環境の変化は、子供にとって大きな不安を伴います。新しい環境に身を置いた際に、なるべく失敗やつまずきを防ぎ、また、これまでの支援や指導で育んできた力を発揮してもらうためにも、丁寧な情報の引継ぎが重要です。

ポイント

障害のある子供については、学校生活のみならず、家庭生活や地域での生活も含め、長期的な視点に立った一貫した支援を行い、引き継ぐことが重要となります。個別の教育支援計画等を活用しましょう。

では、引継ぎが必要になる具体的な場面を見ていきましょう。

① 進級に際しての引継ぎ (→実践例 15)

確実に、かつ、多面的・多角的な視点で引き継ぐようにしましょう。そのために、二つの計画を活用して、できれば通級担当同士だけではなく、複数の人で引き継ぐことが望ましいです。

●引継ぎの方法(例)

- ・校内委員会や学年会の議題として位置付け、これまでの指導や支援で上手く対応できたことや今後の課題等を伝え、共有することが考えられます。
- ※ 通級担当が替わる場合には、担当している子供の状況に加えて、1 週間のスケジュールの組み方や教室環境など、通級指導教室の経営についても、必要に応じて引き継ぎましょう。

② 進学等に際しての引継ぎ (→実践例 16)

進学、転学や就職は、大きな環境変化により不安が生じます。子供の不安に寄り添った丁寧な引継ぎを行きましょう。

●引継ぎの方法(例)

- ・地域の学校種を越えた連絡会や入試後の進学先との情報交換会などの場を通じて、教育的ニーズや特性等への必要な配慮や支援を伝え、共有します。特に、進学先の環境変化に伴う、想定される困難さについて検討することが考えられます。
- ・就職の場合は、地域のハローワークや就労支援機関での取組状況を把握して、連携して引き継ぐことが考えられます。

※転学に際しての引継ぎ

- ・管理職を通じて、引継ぎ方法を検討してから行いましょう。

ポイント

- 情報の引継ぎに当たっては、学校間による組織的な対応が重要です。
- ・個人情報保護の観点に留意しつつ、特別支援教育コーディネーター等が、引き継ぐ内容を共有し、十分な引継ぎを行う体制を整える必要があります。
 - ・校長や特別支援教育コーディネーター、在籍学級担任を含む校内全体の理解が必要です。

参照：校内の体制づくりなど引継ぎについて

- ▶「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」(文部科学省)
- ▶文部科学省モデル事業「系統性のある支援研究事業」実践事例集 (前半) (後半)